

## ■事業の目的（300字程度）

本事業は、地域にある水資源の地域エネルギー化を図るとともに、再生可能エネルギーの地産地消と地域活用を通じて、産官学民が一体となり「地域自らが継続的に発展する地域経済モデルづくり」を推進、実施していくことを目的とする。

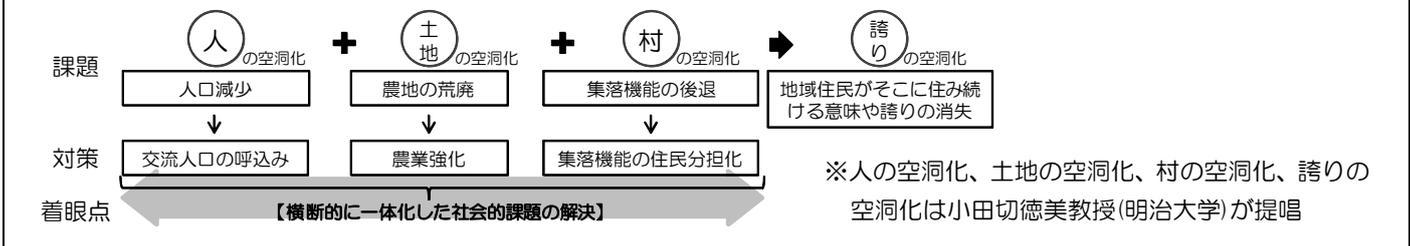
## ■事業の概要（300字程度）

事業の目的を達成するため、産官学民(民は住民)のチームづくり、小水力発電機の開発販売、再生可能エネルギーを地域内での生産・消費・活用するコミュニティづくり、地域活性化や経済モデルづくりのアイデア創出から事業主体形成までをプロデュース、コーディネートしている。具体的には以下の事業を実施している。

- 魁 プロジェクト：従来の小水力発電の常識をブレイクスルーした、低落差、少流量での高効率発電を実現した世界初の相反転方式落差型小水力発電装置を提供するサービス
- 紡ぐプロジェクト：小水力発電により生まれた電気を地域の資源として紡ぎ、様々な電気利用を通じて地域活性化へ繋がる仕組みを提供するサービス(小水力発電 with Design)
- 繋ぐプロジェクト：地産地消地活型の小水力発電利用から生まれる様々なアイデアや活動を繋いで、地域に経済効果をもたらす事業への取組を呼び起こすサービス(Design connect Design)

## ■社会的課題の現状アプローチ（図表可）

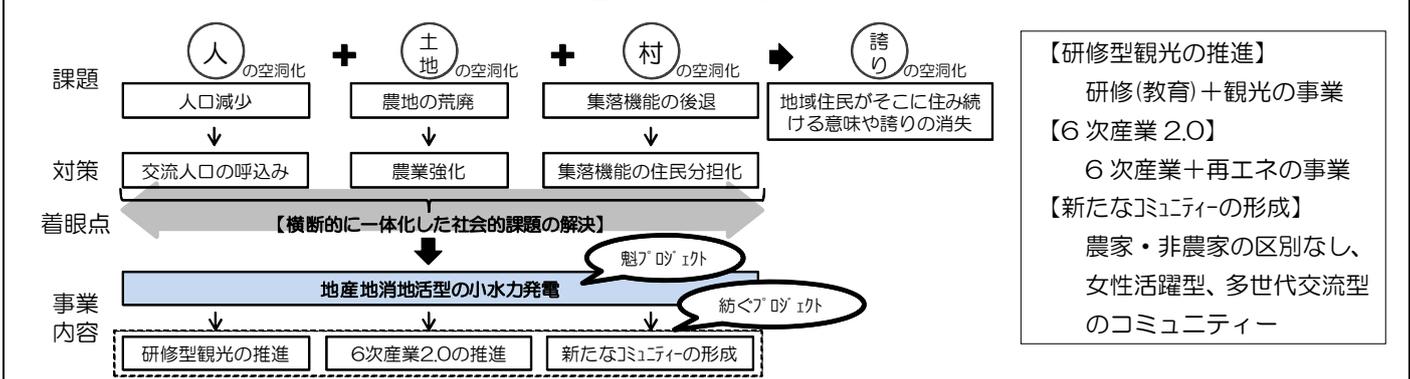
我が国の多くの地域では“共同体的な一体意識”に基づいた地域コミュニティを形成し、地域を支えてきた。しかし、多くの地域では三つの社会的課題(人、土地、村の空洞化)が顕在化し、歯止めがかからない状況となり、地域住民が住み続ける意味や誇りを消失するステージ(誇りの空洞化)まで来ている。これまでは各々の社会問題に対して人口減少対策、耕作放棄地対策、コンパクトシティといった単発の対策を講じてきた。しかし、本事業では地域の社会的課題を横断的に一体のものとして捉えた解決方法を講じるものである。



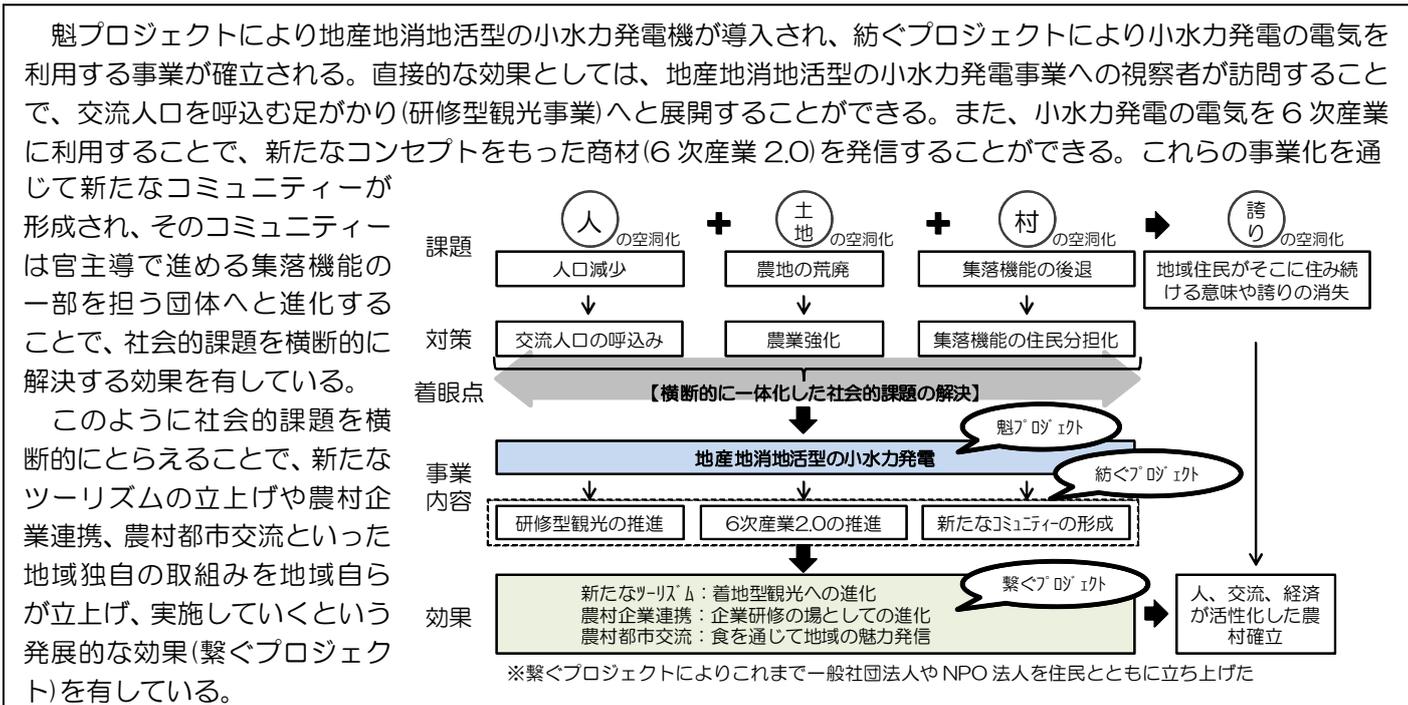
## ■具体の事業内容（図表可）

地域の共通の社会的資本として確立されているものとして農業用水が挙げられる。農業用水は地域の歴史的意義を持つだけでなく、地域住民の生活にかけがえのない存在として認知されている。つまり、多くの人を結びつけるものである。本事業では、農業用水を活用した地産地消地活型(地域内生産・地域内消費・地域活用)の小水力発電の開発と利用により上記の課題を解決する。

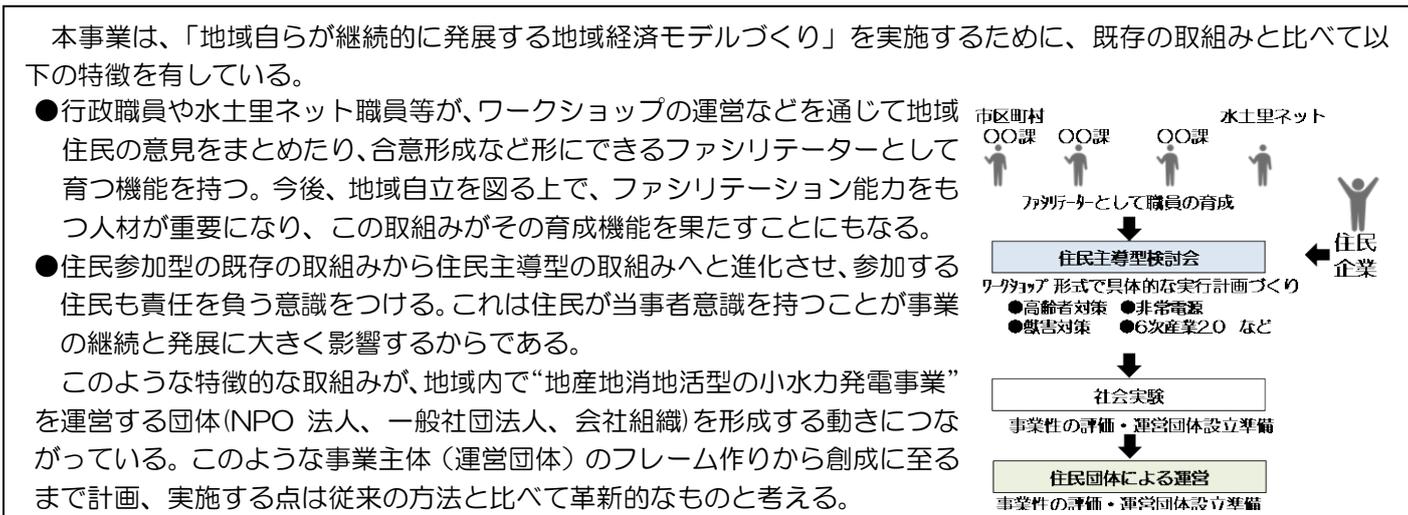
- 魁 プロジェクト：小水力発電の導入
- 紡ぐプロジェクト：「小水力発電 with Design」としての事業(研修型観光の推進、6次産業 2.0、新たなコミュニティの形成)の立ち上げと推進



## ■実施による効果



## ■事業の特徴・革新性



## ■今後の展望

我が国には地球10周分(40万km)の農業用水が整備されている。多くの地域では農業を通じて地域が形成され、助け合いや支え合いの基でハード(設備)と結(ソフト)が社会的関係資本として成立ってきた。現在、農業を取り巻く情勢の激変、超高齢化社会の進行、地域での生活の基盤となる場の崩壊等が顕在化する中で、今後は如何にして地域の自然や環境、伝統や文化を活かしつつ、ヒトづくりやコトづくりにより地域の経済的自立を図るかが益々重要になってくる。一方で化石燃料依存率を下げ、再生可能エネルギーを活用することは我が国に限らず地球的課題である。

この事業は、再生可能エネルギーを活用するための知恵を出し、その活用取組を通じて地域住民が自らの意志と知恵と協働により経済的自立を目指す、その道標ともなると確信している。

- 地域自治組織の拡充と充実
- 企業のCSVと農村の連携
- 再生可能エネルギー(とくに小水力発電)の普及

「官」の支えを必要としつつも、「官」に依存しすぎない、自立の発想と誰もが創造的に関わって行ける地域社会の実現に向かって、多くの知恵と技術を活用しつつ、そこに住む住民とともに未来への価値創造を結果につなげていきたいと考えている。